

旅を楽しむカーナビで市場を立ち上げた 一念岩をも通す、信頼と信念の開発者

「求人をかけても誰も集まらな
い」。2006年9月、キャン
バスマップルを知人らと立ち上
げた山本幸裕は頭を抱えていた。
新事業は成功すると確信してい
たが、必要な人材が新しい名の
会社に見向きもしなかったのだ。
勝算はあった。山本は「マッ
プル」を電子化する事業に取り
組んでいた。シェア85%を誇る
道路地図と約100冊に及ぶ観
光ガイド誌に眠る情報をカーナ
ビに移す。「宝の持ち腐れ」とな
っていた紙情報に息を吹き込む
のだ。

たとえば「渋滞ぬけみち道路
地図」がある。これはタクシー
の運転手や運送業者を丹念に取
材し、スクールゾーンを避けな
がら抜け道を示したものだ。紙
の発行はやめたが渋滞時の情報
として生かすことがなかった。
バイオニアのカーナビ事業担
当者から転身した山本は、マッ
プル発行元の昭文社と組んだこ
とで「人がいて物が作れば絶

対に成功する」と信じていた。
事業のカギは、カーナビ開発に
おいて基礎となる六つの技術に
加え、二つの電子化技術だった。
それは①地図表示、②目的地検
索、③ルート探索、④誘導機能、
⑤GPS機能、⑥位置情報、⑦
紙地図のデータ化、⑧ガイド誌
のデータ化だ。八つの技術を担
う人材の確保が急務だった。

集 まらなければ自ら探す。
8人の技術者を探すが
始まった。北海道から九州まで
50〜60人に会いに全国を飛び回
った。食事会の「はしご」は当
然だった。午後6時から食事を
取り、午後9時からまた一か
ら食事を取る。相手の妻が難色
を示せばその妻も招く。その場
でダメでも半年後には「そろそ
ろ来られるか」と説得を続けた。
1年たちお腹のベルトはきつ
くなったが、大手メーカーを中
心に8人集めることができた。
山本は「南総里見八犬伝の八つ
の玉を探す旅のようだった。ド



株式会社 昭文
キャンバスマップル株
株式会社 マップ

支持を得たのだ。
とはいえ、山本は技術者でも
カーナビひと筋でもなかった。

**音楽業界からカーナビへ
独学で専門書を読み込み
ノートを見せて信頼獲得**

2000年、バイオニアでカ
ーナビ事業を担当することにな
った山本の挨拶。「華原朋美さん
の音楽レーベルを立ち上げた山
本です」。技術系の部下約30

0人には歓迎どころか、しらけ
たムードが漂っていた。

もともと山本は金属メーカ
の購買担当を経て1992年、
バイオニアLDC（現ジェネオ
ン・ユニバーサル・エンターテ
イメントジャパン）に転身。オ
ルモックレコードという小室哲
哉氏のレーベルの立ち上げにか
かわった。だが、音楽事業の縮
小でエンタメ業界から親会社で
のカーナビ担当になった。

起・業・人 Number 351

やまもと・ゆきひろ/1962年生まれ。48
歳。東京都出身。86年度慶應義塾大学卒業
後、バイオニアなどを経て2006年に昭文
社の子会社として知人らとキャンバスマッ
プルを設立。09年社長に就任。

リームチームができた」と言う。
楽しむナビで差別化図り
テレビ通販に販路をを広げ
女性層にヒットさせる

山本の開発した「マップルナ
ビ」は女性の心をつかんだ。
ドライブ中、地図だけでなく
秘境的な場所も紹介する。富士山が
よく見える場所も案内する。早
く目的地に着くだけでなく、
寄り道を楽しんでもらうのだ。

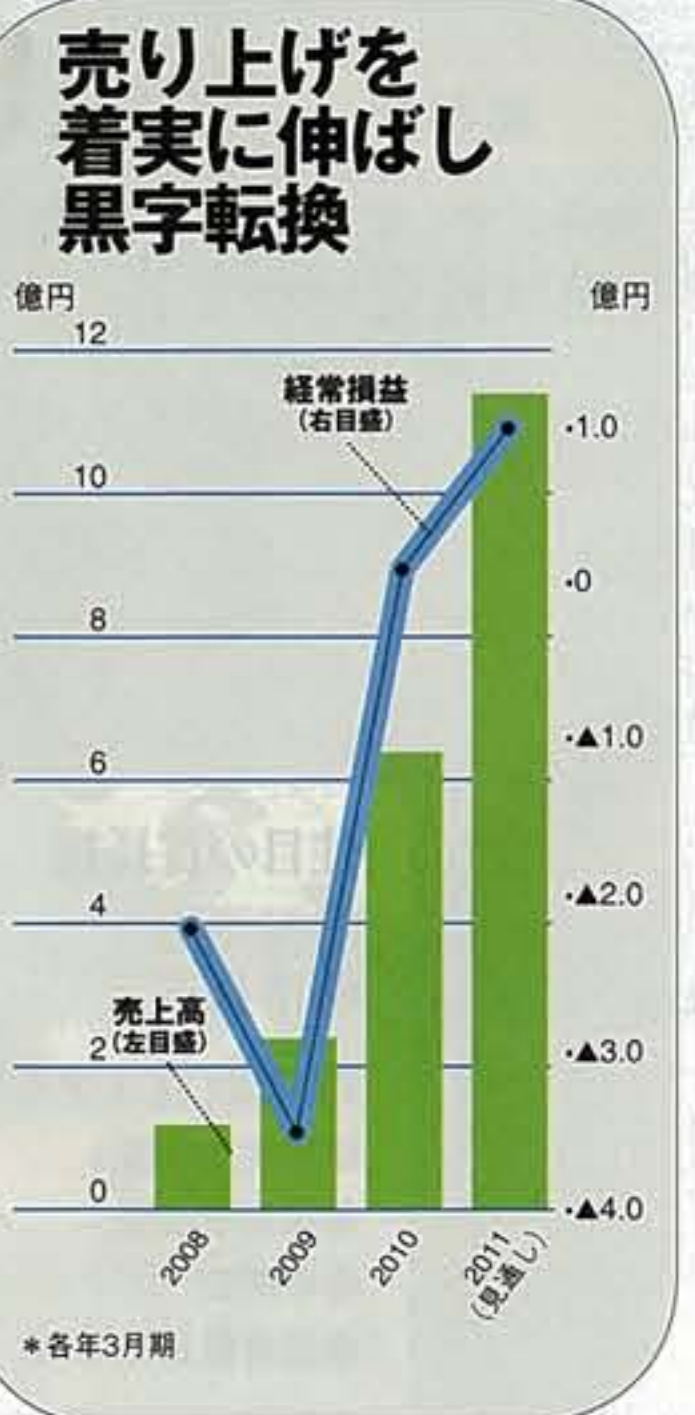
マップルナビを搭載した小型
携帯カーナビの10年度の販売台
数は24万台になる見込みだ。大
手メーカーがひしめくなか、携
帯型カーナビの国内市場で参入
からわずか3年でシェア20%を
獲得することになる。

躍進した理由は主に三つある。
まず、マップルのコンテンツを
最大限生かした。開発は3メー
カーと組み小型携帯カーナビに
絞った。部屋で使える「電子ガ
イドブック」の特色を出した。
次に販路をテレビ通販番組に

バイオニアはカーナビ業界で
トップランナーだったため、山
本は「差分更新」など専門知識
を覚える必要に迫られた。部下
に聞いても「どうせ、わかりま
せんから」とにべもなかった。
専 門書を読み勉強する週末
が続いた。設計書を見て
自分なりにノートをまとめた。
会社に出たらそれを部下に見せ
た。すると無表情の部下も笑み
を浮かべるようになった。

04年、会社の技術を結集して
3D機能の付いたカーナビを世
に出す。しかし、3Dは購入時
のいちばんの売りとなったが最
も使われない機能であることも
わかった。飽和する市場を前に、
事業の限界を感じていた。
山本の足は起業へと自然に向
いていた。亡き父親は大正生ま

キャンバスマップル社長 山本幸裕



れの経営コンサルタント。独力
で大企業を相手にする姿を見て
人と人との信頼関係の大事さを
学んでいた。
ビジネス書は年間約150冊
読んできた。特に「信念の魔
術」(C・M・プリストル著)は、
読後約20年たった今も手元にあ
る。人材が集まらない時期も
「誘った技術者は来てくれる」と
信じ抜いた。信頼と信念、こ
こに山本らしさがある。
11年3月期は1億円の経常黒
字を見込む。今年6月には新機
種を出し、デジタルカメラやス
マートフォンに展開することも
狙う。「社名ではなく私を信頼し
てくれた部下がいる。まだまだ
これからだ」と語る山本は次の
目的地を設定しようだ。
(敬称略) 本誌・小島健志

わが社は これで勝負!

観光ガイド誌「まっぷるマガジ
ン」の約8万件の情報や道路地図
情報を詰めた「マップルナビ」。
旅を楽しめるようにと開発した小
型携帯カーナビは、テレビ通販を
きっかけに、なかでも女性から支
持を得ている

